



やまなし
日本語教育プログラム

—自分らしく生きていくためのことばの活動—

山梨県



目次

1. はじめに
2. 山梨県の取り組みとプログラムの位置づけ
3. プログラムの考え方
4. 開発プロセス
 - (1) 調査と検討
 - (2) トピックと活動集の作成
 - (3) 試行と改善
5. プログラムの構成
 - (1) 対象者
 - (2) レベル構成
 - (3) プログラム一式

1. はじめに

近年、日本国内における在留外国人の増加に伴い、多様な背景をもつ人々が地域社会の一員として生活しています。本県でも在留外国人数は年々増加し、令和7年6月末には24,392人¹となりました。出身の国・地域も多様で115を超えています。このような中、地域で暮らす外国人住民への日本語教育には、単なる言語習得の機会にとどまらず、社会参加を支える基盤として、実践的かつ柔軟な役割が求められています。

「やまなし日本語教育プログラム」(以下、本プログラム)は、このような社会情勢の変化に応えるために開発しました。地域で暮らす外国にルーツを持つ方々が、地域社会とつながりながら主体的に関わっていくための「ことばの力」を育ぶことを目指しています。

2. 山梨県の取り組みとプログラムの位置づけ

山梨県では、令和2年に「やまなし外国人活躍ビジョン」(令和5年改訂)²を策定しました。このビジョンでは、外国にルーツを持つ住民が安心して働き・暮らせる環境づくりが目標として掲げられています。また、令和4年には「やまなし多文化共生社会実現構想」³を策定し、多様な人々が自分らしく活躍できる社会の姿が示されました。

令和2年度からは「山梨県地域日本語教育推進事業」として、地域での日本語教育の機会拡大と質の向上を図ってきました。

本プログラムは、「やまなし外国人活躍ビジョン」と「やまなし多文化共生社会実現構想」の理念と方向性を踏まえた、地域で暮らす外国にルーツを持つ方々が安心して生活し、力を発揮できる環境づくりに資するものとして位置づけています。

¹ 出入国在留管理庁「在留外国人統計」

² <https://www.pref.yamanashi.jp/documents/110370/gaikokujinkatsuyakuvision2023.pdf>

³ <https://www.pref.yamanashi.jp/documents/110370/tabunkashakaijitsugenkousou.pdf>

3. プログラムの考え方

本プログラムの理念は、「多様な価値観を認め合い、誰もが活躍できる共生社会の実現」です。この理念のもとで目指すものは、誰もがその一員として関わりながら自らの力で選択し、主体となって、ともに社会を創っていく姿です。

こうした社会の実現に向けて、本プログラムでは「参加者が日本社会において自己実現を図るために必要なことばの学びに主体的に取り組むこと」と「ことばを使ったやりとりを通して人とつながり、人間関係を育みながら地域社会に関わっていくこと」を目指すこととしました。

社会の中で自分らしく自己実現していくには、あいさつを交わしたり、必要な情報を尋ねたり、自分の考えや経験を伝えたりしながら、周囲の人と関わり、関係を築いていくことが欠かせません。そこには、他者と関わりながら意味をやりとりする「ことばの力」が必要となります。そこで、本プログラムでは、共生社会を支える「ことばの力」を育むため、「ことばの活動」を軸に据えました。

本プログラムにおける「ことばの活動」とは、単に表現を覚えたり練習したりすることではなく、他者と関わり合いながら意味をやりとりし、その場の状況や関係性をともにつくっていくコミュニケーションの営みを指します。

以上の考え方に基づき、本プログラムは開発されました。

4. 開発プロセス

(1) 調査と検討

本プログラムは、令和5年度から3年間をかけて開発しました。開発にあたっては、県内で暮らす外国にルーツを持つ方々へのインタビュー、日本語教室の参加者からの意見収集、関係機関へのヒアリングなどを行い、地域における日本語教育がどのような役割を担うべきか検討を重ねました。

(2) トピックと活動集の作成

調査などにより得られた声をもとに、山梨で生活するうえで求められる具体的な言語活動を生活場面ごとに分類し、40のトピックにまとめました。

そして、トピック別に「活動集」を作成しました。活動集は、生活場面における話題や、やりとりを起点に、参加者が自身の経験や状況を踏まえてことばを用いることができるよう構成しています。特定の表現や語彙の習得にとどまらず、意味のやりとりを通して学びを深めていくことを意図して作成しました。

(3) 試行と改善

本プログラムは、開発段階において既存の日本語教室2か所で試行し、この実践を通して改善を重ねました。また、プログラムの目標達成にどの程度寄与しているかを把握するための評価も行い、その結果をもとにさらなる検討を進めました。

5. プログラムの構成

(1) 対象者

国籍や在留資格を問わず、外国にルーツを持ち、山梨で暮らす中で、日本語によるコミュニケーション力の向上や地域社会とのつながりを求める全ての方々を対象としています。

(2) レベル構成

『日本語教育の参照枠（報告）』（文化庁, 2020）⁴で示された全体的な尺度に基づき、A1からB1までの段階的な「ことばの活動」を行うことができる構成です。それぞれの希望やレベルに応じて「ことばの活動」に取り組み、その過程で、実生活での日本語によるコミュニケーション力が養われるようにしています。

(3) プログラム一式

- ・「理念、目的、目標」と「実践で大切にしたい5つのこと」
- ・トピックと具体的な言語活動一覧
- ・活動指針（レベル別目指す姿と活動の目安）
- ・活動集
- ・活動の解説
- ・活動の記録
- ・プログラム評価のための質問紙

☞ プログラム一式の詳細は「プログラムをお使いになる方へ」をご覧ください。

⁴ https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93736901_01.pdf